27　楠川盆踊り（くすがわぼんおどり）

指　定　　**平成 26 年１月１日**　　**屋久島町指定無形民俗文化財**
所在地　　**屋久島町楠川**

楠川では，「ヨイヤサ」の呼称で親しまれており，「先回し（庭入り）（ヨイヤサ）」，「四ツ竹踊り」，「松島踊り」，「扇子踊り（落平・オテンダ）」，「手踊り」，「笹踊り」，「伊勢踊り（イセモンド）」の組踊りである。

楠川盆踊りは，８月 13 日，15 日に行われている。かつては旧暦７月 13 日，７月 15 日であった。このうち 13 日の踊りは「施餓鬼踊り」とも呼ばれ，１年以内に亡くなった人の冥福を祈るために「施餓思棚」を設けた本蓮寺境内で仏様に向かって１回，屋久島の御嶽に向かって１回踊られる。

15 日には本蓮寺の他に村エビス，楠川天満宮，熊野神社，港，浜エビスでそれぞれ踊られ，その後初盆を迎える家々を回って踊り続けられる。このときは，「ともよ踊り」とも呼ばれている。初盆の家では，踊り手は扇子の上にシキミの葉をのせ「ナンミョーホ」と唱えてから踊り始める。

踊り手，囃子手（太鼓，鼓，歌い手）ともに青年男子によって構成され，服装は浴衣に鉢巻，ほかに小道具として四ツ竹，鈴（湯呑みに小銭を入れて白い布でくるめたもの），扇子，笹枝が用いられる。

いつの頃から踊られてきたかは定かではないが，各踊りの歌詞などから藩政後末期頃と考えられている。戦後一時中断されていたが，昭和 40 年代半ばに青年層により復活され現在に至っている。

現在楠川区に楠川盆踊り保存会が組織され，30 歳～50 歳代を中心とし 20 歳から 60 歳代までの各層により，踊り，囃子の継承がなされている。また，楠川区を校区に含む宮浦小学校と連携し少年層への啓発，普及活動にも積極的に取り組んでいる。

芸能的特長は姿勢が低く，同じ側の足と手を揃えるなどの古態が残り，またすべての踊りが右手を中心とし，持ち物の動きに合わせて目線が必ず右手の先に集中していく踊りであることも注目される。また，盆踊り唄全体によく現れているが屋久島島民たちの江戸時代以後の沖縄や長崎，伊勢，鹿児島などの交流の歴史をうかがわせるとともに，屋久島の山への信仰と海での活動を伝える貴重な伝承遺産といえる。